

2025 年度法科大学院入試（A 日程） 【一般論文試験問題】 出題趣旨および採点基準

<出題趣旨>

法曹実務においては、「いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ」といった事実関係（いわゆる 5 W1H）を時系列に沿って整理し、正確に把握する能力が求められる。そこで、本論述問題では、行動経済学の効用を論じる 2 つの文章を読んで、まず事実や前提を正確に整理して要約し、論点を明確にする力と、それらの要点を踏まえたうえで当事者の主張や意見について分析をする力、という 2 段階の能力を測る。

<採点基準>

以下の諸点を評価する。

設問 1. <A><B> 2 つの文章の要約が適切な長さできているか。また、<文章 B>の要点を踏まえたうえで、<文章 A>から適切な例を挙げられているか。(30 点)

設問 2. 本文にはない設定、すなわち「ナッジ」がどのような場面で効果がなく、それどころか回避されるべきかを、論理的かつ説得的に論じているか。本文が叙述する「ナッジ」の特徴や利点を適切に説明した上での回答や、逆に「ナッジではない」諸条件を踏まえたうえでの適切な具体例を挙げられている回答は、評価が高くなる。また、「あなたの考えを論ぜよ」と問う設問なので、本文の要点をただ敷衍するのではなく、著者の論理枠組と自分の意見とを明確に区別して説明する考察のほうが評価される。(30 点)

【その他】

- ・議論の流れの一貫性や主張の明確さが際立つ回答に、最大プラス 40 点
- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は、著しい場合のみ最大マイナス 20 点